

第36回仙台シンポジウム9月例会開催

テーマ「安倍政権の課題と政治・政党の動向」



■ 9月拡大例会（9月4日開催）44名参加

★講師 政治アナリスト

伊藤 惇夫 氏

伊藤先生からは、今回の自民党政権は「一強他弱」と評し、3年後のダブル選挙までは政権交代や政界再編もない。民主党の再生の道は極めて厳しく当面二大政党制も消えるとの予測である。国会には緊張感が必要であり、数合わせではなく、政策・理念・ビジョンを7割程度共有した野党再編が政治の活性化の道であると主張されました。

また、安倍政権はアベノミクスの言葉で表現されている現在の景気・経済の期待感からの高支持率から、現実的な評価が問われる時期に来ており、伊藤先生からはGDPの60%を占める個人消費、つまり毎月の給料が上がる施策や今や労働者の40%になろうとしている年収200万円程度の非正規雇用者問題への対策が必要である。直近の最大課題の消費税増税問題では、最終的には総理の判断になるとの前置きした上で、増税を実施しなかった方のリスクが国際信頼の失墜ということから判断して大きいと指摘されました。

さらに、自民党政権には、安定政権だから出来る“日本を世界の「主要国」としての地位を確保するための「長期国家ビジョン」”を策定してほしいと注文をつけられました。

日中、日韓外交においては、靖国神社の秋の例大祭への参拝の可否がカギになると述べました。

その他、憲法問題、TPP問題や人事問題など多岐にわたる内容についてご講演を頂戴し、大変有意義なシンポジウムになり、参加者の皆さまを含めましてご協力に感謝申し上げます。

<第36回仙台シンポジウムの今後の予定>

例会（開催日）	テーマ	講師
10月拡大（17日） 10:30～12:00	日本経済の行方～安倍政権の経済政策の検証と今後	日本総合研究所理事長 高橋進氏
11月拡大（開催日未定） 14:00～15:30	発展に向けた新たな成長戦略	政策研究大学 大田弘子氏
12月（6日） 14:00～15:30	朝鮮半島情勢と日本の対応	コリア・レポート編集長 辺真一氏

*全例会とも会場は仙台商工会議所会館7階大会議室です。各例会に参加ご希望の方は、東北生産性本部（TEL022-261-0411）までご連絡下さい。

第一義 ～靖国神社参拝～

8月15日には毎年総理を初めとした閣僚の参拝問題の報道がなされています。「A級戦犯」の靖国合祀は79年春に毎日新聞がスクープしたそうであります。当時の総理は大平氏で春も秋も靖国の例大祭に参拝しましたが、同年12月に訪中した際に中国側は熱烈歓迎したそうであります。その後中曽根総理に変わってから、中国も韓国も歴史を政治の道具にしてきたという経緯にあるそうです。小職は「ある時代に自らの身命を投げ出して国家の存続を図る行為に対して、後世の国の代表が慰霊しなければ誰が国のために死ぬのか」という思いでおります。何故日本だけが、慰安婦問題を含めて隣国から歴史の政治利用をされるのか。マスコミを初めとした私たち日本人の責任を再確認すべきと考えます。（記S・Y）